

日々の祈り

2022年2月28日(月)~3月5日(土)

宮崎中部教会



<はじめに>

それぞれの日々の生活の中で、神さまに心を向け、御言葉を聞き、祈りをもって過ごしましょう。教会のために、兄弟姉妹のために、隣人のために、祈りを合わせましょう。

<使い方>

毎日の御言葉を、可能であれば声に出して、二回以上読んでみましょう。御言葉をじっくりと味わい、聖霊に導かれるまに、祈りの時をもちましょう。

<今週の祈りの課題>

- ・国々の争いが終わり、悲しみや不安の中にある人々に慰めと平安が与えられるように。
- ・神さまを愛し、隣人を愛する歩みへとすべての人が招かれるように。まずわたしたちが祈りをもってそのことを始められるように。
- ・弱さや苦しみを覚えている信仰の兄弟姉妹のために。

28日(月)

ルカによる福音書 21章 16~19節

あなたがたは親、兄弟、親族、友人にまで裏切られる。中には殺される者もいる。また、わたしの名のために、あなたがたはすべての人に憎まれる。しかし、あなたがたの髪の毛の一本も決してなくならない。忍耐によって、あなたがたは命を勝ち取りなさい。

昨日の御言葉を思い巡らしましょう。忍耐とは、とどまることです。わたしたちが主の御許にとどまるということです。いやむしろ、わたしたちが完全に主のものとされていて、わたしの髪の毛一本さえも神さまが手放されることはない信じ続けること、と言った方が良くも知れません。これは、わたしたちの決意や努力でなされることではなく、神さまがわたしたちを捕らえ続けて下さっているその御力に、ひたすら寄り続けることなのです。

1(火)

ヘブライ人への手紙 10章 34~35節

実際、捕らえられた人たちと苦しみを共にしたし、また、自分がかかるとすばらしい、いつまでも残るものを持っているので、財産を奪われても、喜んで耐え忍んだのです。だから、自分の確信を捨ててはいけません。この確信には大きな報いがあります。

捕らえられたとしても、財産を奪われたとしても、自分がかかるとすばらしい、いつまでも残るものを持っていると知っている人は幸いです。そして、そのことは「確信」してよいことである。まったく確かである、とされています。イエスさまによる罪の贖いと、神と共に生きる永遠の命に与ること。そこに喜びがあり、そこに耐え忍ぶ力の源があります。

2日(水)

詩編 31 編 6 節

まことの神、主よ、御手にわたしの霊をゆだねます。わたしを贖ってください。

本当にすべてをゆだねる、ということが、中々できないわたしたちです。自分の思いも、不安も、願いも、嘆きも、中々手放すことのできないわたしたちです。でも、それを掴んでいては、神さまの恵みを受け取るために両手を広げることが出来ません。まことの神、主に、わたしたちは自分をまるごとおゆだねし、神さまが与えようとして下さっているものを、自分という器のすべてで、豊かに受け取らせて頂きたいのです。

4日(木)

ローマの信徒への手紙 8 章 38~39 節

わたしは確信しています。死も、命も、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、高い所にいるものも、低い所にいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです。

これまでも、今も、これから、どんなものも、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことは出来ません。これは、わたしたちが持つことができる確信です。またそのゆえに与えられる、確かな希望です。

5日(金)

詩編 24 編 9~10 節

城門よ、頭を上げよ／とこしえの門よ、身を起こせ。栄光に輝く王が来られる。栄光に輝く王とは誰か。万軍の主、主こそ栄光に輝く王。

次の主日礼拝の御言葉です。終わりの日。それは、破滅の日、万物が破局する日ではありません。終わりの日とは、イエスさまが来られ、わたしたちの救いを完成させて下さる日。復活の新しい体が与えられる日。天と地において古いものは過ぎ去り、すべてが新しくされる日なのです。ですから、わたしたちは頭を上げて、身を起こして、その日を待ち望みます。

6日(土)

ルカによる福音書 21 章 27~28 節

そのとき、人の子が大いなる力と栄光を帯びて雲に乗って来るのを、人々は見ると。このようなことが起こり始めたら、身を起こして頭を上げなさい。あなたがたの解放の 때가近いからだ。

明日の主日礼拝の御言葉です。人の子、つまり復活し天に昇られたイエスさまが、大いなる力と栄光を帯びて来られる日、わたしたちは「身を起こして頭を上げなさい。あなたがたの解放の 때가近いからだ」と言われています。解放の日。それは、死からの解放であり、罪からの解放であり、苦しみや涙からの解放の時だからです。「然り、彼らは労苦を解かれて安らぎを得る」(黙示録 14:13)。この日が来ることが約束されているからこそ、世にあるわたしたちは、イエスさまが忍ばれた十字架の御跡に従って、どのような時にも希望を失わずに歩いていくことが出来ます。

聖句:日本聖書協会『聖書 新共同訳』